

平成 24 年 6 月 27 日

日本技術士会 原子力・放射線部会 第 8 回全体会議 議事録

1. 開催日時：平成 24 年 6 月 15 日（金）14:00～15:00
2. 開催場所：日本技術士会 葦手第 2 ビル 5 階 A・B 会議室
3. 出席者：出席者総数：151 名（添付資料参照）
4. 配付資料
 - 公益社団法人日本技術士会 原子力・放射線部会 第 8 回全体会議（総会）・特別講演会 次第
 - 資料－1：平成 23 年度事業報告および平成 24 年度事業計画
 - 資料－2：平成 23 年度収支決算報告書（平成 23 年 4 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）
 - 資料－3：平成 24 年度予算計画（案）（平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日）
 - 資料－4：日本技術士会（原子力・放射線部会）平成 23 年度収支明細表（参考資料）
5. 議事内容
 - (1) 開会宣言

青木幹事の宣言により、原子力・放射線部会第 8 回全体会議が開会された。
 - (2) 来賓祝辞

日本技術士会高木専務理事より、以下の祝辞をいただいた。

 - －世界的に経済の先行きが不透明の中で、平成 23 年 3 月に東北地方－太平洋沖地震に伴い東京電力福島第一発電所の事故が発生し、この 1 年間種々の活動が行われてきた。
 - －原子力・放射線部会にあっては、一時帰宅者支援活動を実施するなど、福島県出身の自分としても感謝している。
 - －福島第一原子力発電所の事故が発生したことで、国内には脱原発が主張されたりしているが、中国・韓国・ベトナム等では原子力利用は今後も進められる方向にある中で、我が国が原子力技術開発を止めていいかはよく考えるべき。物と人を繋ぐのは技術であるとの認識の上に、何をどのように選択するかよく考えること。
 - (3) 部会長挨拶

桑江部会長から、以下の挨拶があった。

 - 部会長を拝命してから約 1 年の間、部会として、個人として、何をすべきかを考え続

けている。約 250 名の技術士を抱える原子力・放射線部会がなすべきことは沢山あるが、それを成し遂げるためには個々の部会員の力を結集し、組織としてまとめあげることが重要であるとする。

(4) 総会出席者・委任状数報告

大橋副部会長から、出席者数及び委任状数について以下が報告された。

部会員数：248 名
出席者数：42 名(14:00 時点)
委任状数：99 名
合 計：141 名

以上より、全体会議成立条件である会員の過半数（124 名以上）の出席（委任含む）が得られたため、全体会議は成立すると報告された。

(5) 書記及び議事録署名人の選任

議長は規定により桑江部会長とし、書記に内田幹事、議事録署名人に林相談役が選任された。

(6) 平成 23 年度事業報告及び平成 24 年度事業計画

畑幹事から昨年度事業報告と今年度の事業計画について、配布資料 1 及び 2 に基づき報告された。昨年度は震災・福島第一原子力発電所事故対応に係る活動及び従来からの活動の継続を行ってきた。平成 24 年度もこれらについて継続的に取り組む計画が示された。

これについて、特段の質疑はなく、実績及び計画は出席者により拍手承認された。

(7) 平成 23 年度決算報告及び平成 24 年度予算計画

阿部幹事から、平成 23 年度収支報告及び平成 24 年度の収支計画案についての報告が配布資料 2 及び 3 に基づき行われ、以下の質疑があった。

Q 1 ; 予算は銀行預金としているか。その場合預金利子はあるのか。

A 1 ; 銀行預金で管理している。利子は数円程度である。

Q 2 ; 積立金 15 万円とあるが、毎年の積み立ては可能なのか。

A 2 ; 積立額は各年度の剰余金の状況で変動させる。

Q 3 ; 積立金は部会創設 10 周年記念事業に当てるとの説明であるが、今年度事業計画に記念事業の検討について記載がない。

A3 ; 事業計画に記念事業の検討を追記する。

Q4 ; 福島支援事業の予算措置はどのようにしているのか。

A4 ; 日本技術士会の防災委員会の予算を適用する (約 300 万円) ので、部会の予算の対象外である。

Q5 ; 福島の一部帰宅者支援の旅費、日当などの措置はどのようにしているか。

A5 ; 当該事業は日本原子力研究開発機構 (JAEA) からの嘱託であり、必要な日当、旅費等は当該機構から支払われている。

これらの質疑の後に、平成 23 年度決算及び平成 24 年度予算は、出席者により拍手承認された。

(8) 幹事紹介

議長より、平成 24 年度の部会幹事が紹介された。

(9) その他

出席者より、5 年後・10 年後の技術士確保の展望について質問があり、以下の議論があった。

- 技術士の獲得について、中々進まない。私見であるが、1 次試験の受験を進めることが有効ではないかとも考えている。良い方法があれば、部会員の方からのご提案を頂きたいところ。(桑江部会長)
- 試験合格率の低下傾向は他部門でも問題となっており、合格率向上は共通の問題である。1 次試験は過去問題を解くことで合格とすべきではないか、という意見もある。2 次試験は記述のままでよいとの意見もある。平成 26~27 年で試験制度の見直しも予定されており、その中でも検討される事項である。(高木専務理事)
- 1 次試験合格率向上のための職場での活動、部会が日本原子力学会とタイアップで行っている、受験対策ホームページや大学のオリエンテーション等での資料配布活動等が紹介された。(会場)

—以上—

この議事録は、議事内容に相違ないことを確認しました。

平成 24 年 6 月 27 日

議事録署名人

林 克 己



添付資料

(社)日本技術士会 原子力・放射線部会 第8回全体会議、特別講演会 参加者名簿 日時：平成24年6月15日(金) 14:00~17:30 場所：葺手第二ビル5階日本技術士会会議室			改正1:平成24年6月14日	
氏名	氏名	氏名	氏名	全体会議
講演者	1	北澤 宏一		×
来賓	1	高木専務理事		○
部会員	○	1 青木 照美		○
○は幹事	○	2 阿部 定好		○
		3 網野 真樹		○
		4 井口 幸弘		○
		5 板津 英輔		○
	○	6 市川 禎和		○
		7 伊東 孝男		○
		8 伊藤 甫		○
	○	9 伊藤 晴夫		○
		10 井上 浩		○
	○	11 内田 剛志		○
	○	12 大橋 正雄		○
		13 笠井 重夫		○
		14 笠原 茂樹		○
		15 勝田 昌治		○
		16 神田 僚司		○
		17 鬼島 明洋		○
		18 熊谷 守		○
	○	19 栗原 良一		○
	○	20 桑江 良明		○
	○	21 後藤 廣		○
		22 小宮 雅男		○
		23 近藤 義昭		○
		24 齊藤 勇		○
	○	25 榎 勲		○
	○	26 佐川 涉		○
		27 櫻井 俊吾		○
	○	28 佐々木 聡		○
	○	29 嶋田 昭一郎		○
	○	30 白川 正広		○
		31 菅原 聡		○
	○	32 鈴木 麻純		○
		33 大門 清		○
	○	34 高橋 一智		○
	○	35 高橋 聡		○
		36 高柳 英彰		○
		37 永嶋 國雄		○
		38 中田 よしみ		○
		39 乃村 一郎		○
	○	40 畑 孝也		○
	○	41 林 克己		○
		42 平川 博將		○
		43 藤田 弘孝		○
		44 本田 一明		○
		45 室井 勇二		○
		46 山中 淳至		○
		47 横堀 仁		○
		48 芳中 一行		○
	○	49 佐々木 昭悟		×
	○	50 中野 智仁		○
		51 伊藤 裕		○
		52 伊藤 友加里		○
他部会員		1 岡田 宗久		×
		2 西垣 栄		×
一般		1 塚部 暢之		×
		2 中野 益宏		×
		3 福田 俊彦		×
合計	22			部会員51